ふるさとの誇り 143

まる博レポート

まちの宝箱

―ふるさと文化伝承館リニューアル

大きな土器から飛び出す宝物の数々。

先月十八日にリニューアルオープンした「ふるさと文化伝承館」の新たな看板です。世界的に有名な鋳物師屋遺跡の土器から、市民の皆さまがかつて使用していた道具や古写真など、南アルプス市のストーリーを雄弁に語ってくれる地域の宝物が飛び出しています。

地域や各家庭で大切にされてきた、いわば「ファミリーヒストリー」を紡ぐことで、地域らしさを語る「物語」が見えてきます。これらはこの地に暮らす市民にとってのアイデンティティーの源でもあり、ふるさと文化伝承館はこれらの「物語」を多くの皆さまと共有できる場にしたいと考えています。

また、これらの物語の素材となる「地域の宝物」をきちんと調べ、将来にわたって引き継いでいく拠点施設としての役割も担っていると考えています。いわば伝承館は「まちの宝箱」であり、主役である市民の皆さまと一緒に作り上げていくミュージアムでありたいのです。

オープン直後には、今回展示されている資料の寄贈者や、「〇博（まる）アーカイブ」で昔の思い出話をしてくださった方々が来館され、そこからまた来館者同士で思い出話が花開きました。こうした「記憶の連鎖」も大切に紡いでいきたいですね。

記念すべき最初のテーマ展は、「南アルプスたべもの風物誌」と題して、市民の皆さまから寄贈された民具や古写真、思い出話から、南アルプス市ならではの「食」の物語を紡いでいます。ぜひご覧いただき、ご自身のファミリーヒストリーとも重ね合わせていただければ幸いです。

市民のミュージアム、始まりました。

写真・文　文化財課

メインの円柱には、独特の風土と共に歩んできた先人の知恵を、古写真と共に展示。

新たなバナー看板で皆さまをお出迎えします。

縄文人の息遣いが伝わるかのように膨大な量の土器に包まれる。

5月18日のテープカットでは土偶キャラ「子宝の女神ラヴィ」も登場。

何気ないモノがこの地域ならではの歴史を雄弁に語る。

市民の皆さまから寄贈された暮らしの道具や古写真の数々。早速寄贈者も見学に。

体験メニューも豊富。

秘密基地のようなキッズコーナーも登場。早速人気の場に。

常設展示「足元に眠る」コーナーは、2階は縄文以前、1階は弥生以降。

常設展示の「水との闘い」と「足元に眠る」コーナー。私たちの暮らしの礎がある。

「〇博アーカイブ」を大画面で操作できる。市民が主役に。

記念テーマ展「南アルプスたべもの風物誌」。石臼体験も。